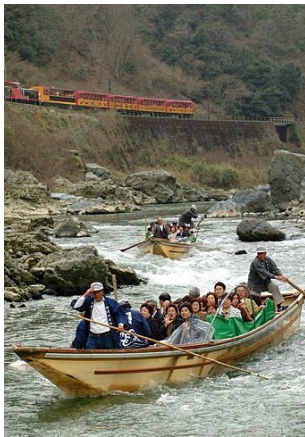


(案)

保津川 かわまちづくり計画

(中間取りまとめ)



平成22年11月

京都府南丹土木事務所
亀岡市

目 次

はじめに	1
第1章 保津川の概要	2
1.1 保津川の概要	2
1.2 保津川の歴史・文化	3
1.3 保津川の自然環境	4
1.4 保津川の利用	5
第2章 河川整備の現状	6
2.1 亀岡地域の主要洪水	6
2.2 治水対策の基本方針	6
2.3 河川整備の現状と課題	7
2.4 これからの河川整備	7
第3章 まちづくりの現状	8
3.1 亀岡市の概要	8
3.2 保津川周辺の観光レクリエーション	9
3.3 まちづくり計画の概要	10
3.4 周辺関連事業計画	11
第4章 かわまちづくりの基本方針	13
4.1 対象区域	13
4.2 整備の目標	14
4.3 整備の方針	16
4.4 具体的な整備内容	17
第5章 今後の進め方	27
5.1 整備の基本的考え方	27
5.2 モデル地区	29
5.3 推進体制	30
5.4 推進方策	31
5.5 整備スケジュール	32
おわりに	33
参考資料	34

は じ め に

桂川は、京都市左京区広河原の佐々里峠付近を源流にして、下流の大府島本町で淀川に合流する延長約114km、流域面積約1,152km²の淀川水系の三大河川の一つです。

この内、亀岡市の中心部を流れる区間は「保津川」という呼び名で親しまれ、その流れは沿川の田畑を潤すとともに、古くは長岡京や平安京の造営時に丹波山地からの木材を運び、江戸時代には角倉了以の保津峡開削によって、食料をはじめ多くの物資を丹波から京都に運ぶなど、重要な役割を果たしてきました。今もその流れは、大都市近郊の豊かな穀倉地帯に用水を供給するとともに、都市の中の貴重な水と緑の自然空間として、また保津川下りやトロッコ列車などの観光名所として、さらにはアユモドキをはじめ多くの生き物の生息環境として重要な役割を果たしています。

一方、この桂川は、一度洪水になると保津峡の狭窄によって水位が著しく上昇し、これまで幾たびとなく氾濫を繰り返し、亀岡の歴史は水害との戦いの歴史とも言われるほど多くの被害をもたらしてきました。

これまでに、日吉ダムによる洪水調節と河道改修による治水対策が、鋭意、進められてきたところであり、平成10年には日吉ダムが完成、河道改修についても着実に進展し、平成21年度には、いわゆる当面計画での整備が概成し、以前に比べ治水安全度は飛躍的に向上してきている状況にあります。

これからは、引き続き、治水対策を段階的かつ着実に進めるとともに、このように沿川の人々の暮らしと深く関わり続けてきた保津川の歴史や文化を踏まえながら、河道改修に伴ってあらたに創出される広大な河川空間の利活用をはじめ、川を活かした新たなまちづくりが望まれているところです。

このような中、“かわ”を活かしたまちづくり、“まち”を活かしたかわづくりを進めるための基本計画として、この「保津川かわまちづくり計画」を策定しました。

策定にあたっては、河川、環境、まちづくり等のそれぞれ専門の観点から意見を聴く「保津川かわまちづくり検討委員会」を設置するとともに、河川やまちづくりに関わる市民団体等の方々が参加する「意見交換会」を開催し、幅広い意見を踏まえながら検討を進めてきました。

今後は、この計画に基づき、“かわ”づくり、“まち”づくりに関わる様々な主体や多くの方々の参画のもと、保津川と亀岡の魅力が最大限に活かされた“かわまちづくり”の実現へとつながっていくことを期待するものです。